同志社大学アセスメント・ポリシーの策定に関する基本方針

同志社大学は、学生が教育課程を通して学位授与方針に掲げた資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を獲得できたかを把握・評価し、改善に活かすためアセスメント・ポリシー（学習成果の評価に関する方針）に関する基本方針を下記のとおり策定する。

記

1. 策定単位

学部学科、国際教育インスティテュート及び大学院研究科専攻（以下「学部等」という。）は、学位授与方針の策定単位に応じてアセスメント・ポリシーを策定する。

2. 策定事項

学部等のアセスメント・ポリシーには、次の事項を定める。

- (1) 実施責任者
- (2) 評価ツール・評価指標
- (3) 実施時期
- (4) 評価方法
- (5) 評価結果の活用

3. 実施責任者

学部等のアセスメント・ポリシーに基づく、学習成果の把握・測定、評価・改善活動の実施責任者は、質保証委員会委員長（＝学部長・研究科長等）とする。

4. 実施時期

学位授与方針に掲げた資質・能力の獲得状況の把握・測定を行い、その他多面的な評価を組み合わせて、入学時から卒業または修了時まで、定期的に学習成果の評価を実施する。

- (1) 学位授与方針に掲げた資質・能力の獲得状況の把握・測定を行い、評価する

卒業または修了時の学習成果の評価の実施は必須とする。学士課程については卒業時に加え、入学時の実施及び途中経過として少なくとも2年次または3年次のいずれかでの実施も必須とする。

- (2) その他多面的な評価

毎年度あるいは毎学期ごとに時期を定めて学習成果の評価を実施することが望ましい。

5. 評価方法

多角的な視点で評価するために、複数の評価ツール、評価指標を用いる。

- (1) 学位授与方針に掲げた資質・能力の獲得状況の把握・測定とその評価

学位授与方針に掲げた資質・能力の獲得状況の把握・測定方法は、学位授与方針に掲げた資質・能力とその獲得度合いの関係が明瞭となるように留意する。

①学士課程

入学時、在学中、卒業年度の学生調査を実施し、その結果を分析することを必須とする。

卒業論文・ゼミ論文（以下「卒業論文等」という。）を提出する学生については、卒業論文等を評価し、その結果を分析することを必須とする。なお、卒業論文等の評価のために、学位授与方針の策定単位に応じて明確な論文審査基準及びルーブリック（学習到達度を示す評価基準を観点ごとに定めた表）を策定する。

卒業論文等を提出しない学生については、卒業論文等の評価に代わる適切な方法により把握・測定して評価し、その結果を分析することを必須とする。

②博士課程・修士課程

原則として、学位論文又は特定の課題の研究成果を評価し、その結果を分析することを必須とする。なお、学位論文又は特定の課題の研究成果の評価のために、学位授与方針の策定単位に応じて明確な審査基準及びルーブリック（学習到達度を示す評価基準を観点ごとに定めた表）を策定する。

③専門職学位課程

特定の課題の研究成果等の評価又はそれに代わる適切な方法により把握・測定して評価し、その結果を分析することを必須とする。

(2) その他多面的な評価

(1)に加え、その他適切な評価ツールまたは評価指標を用いて、把握・測定して評価し、その結果を分析することが望ましい。

6. 評価結果の活用

評価ツール、評価指標ごとに、評価結果の活用方法を定める。

7. 報告

学部等の質保証委員会は、実施した学習成果の評価結果及び改善活動を自己点検・評価結果に反映し、内部質保証推進会議に報告する。

8. その他

学長は、内部質保証推進会議から学部等における学習成果の評価結果及び改善活動について報告を受け、必要な措置を講じる。

以 上